

# 飯伊地区 産業経済動向

No.560 2025/11

(7.12.25 発行)

飯田信用金庫  
IIDA SHINKIN BANK  
しんきん南信州地域研究所

<https://www.iidashinkin.co.jp/>

〒395-0044 飯田市本町 1-2

TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132



## Contents

表 紙 写真：新しい年を迎える「リニア喬木高架橋・天竜川橋梁」(喬木村阿島・12月12日撮影) (撮影協力：株式会社マツザワ喬木工場)	… P 1
製造業 景況DIは前月からほぼ変わらず。食品製造で景況感好転の声が複数	… P 2
建設業 11月の公共工事は前年比減少。10月の住宅着工は前年比38%減少	… P 4
商業・サービス業 景況DIは前月とほぼ変わらず。宿泊業では売上増も景況感は横ばいとの声が多い	… P 5
しんきんリニア・三遠南信対策室です 南信州まちづくりフォーラム新代表 熊谷 弘氏に聞く ～リニアの時代に向けてひとつをつくる～	… P 6
特集 DXの取り組みと賃上げに関するアンケート調査結果	… P 8
飯伊地区全産業景況DIの推移・主要経済指標	… P 10

◆ 本誌内容は飯田信用金庫ホームページ (<https://www.iidashinkin.co.jp/>) に全文掲載しています ◆

本誌は、当金庫が信頼できると考えるデータに基づき作成されておりますが、データ、記述の正確性、完全性を保証するものではありません。御利用に当たってはご自身の判断によってください。

しんきんは環境にやさしい取り組みを地元のみなさまとともにを行っています。



100%植物油型インキ  
〔ナチュラリスト〕を使用しました。

再生紙を  
使用しています

## 地区内製造業の景況判断指数

### 概況 景況D Iは前月からほぼ変わらず。食品製造で景況感好転の声が複数

当月の製造業の業況判断指数（D I）はプラス2.6で、前月から0.2ポイント上昇。翌月予測プラス8.1で、前月から4.1ポイント低下。当月は、食品製造で景況感好転の声が複数聞かれた一方、機械製造では好転、悪化の声が拮抗しており、全体での指標は前月とほぼ変わらなかつた。先行きは、全体的に横ばい見込みの声が多いが、その中で電機・精密・光学機器製造や水引製造で好転見込みの声が聞かれ、こちらは2か月続けてプラス圏となつた。製造業全体として良い話は聞かないとの声は継続して聞かれるが、指標としては最悪期は脱したようにも見受けられる。引き続き、今後の動向を注視したい。

#### 主な業種の動き

##### ●電気・精密・光学

- 受注、販売… 販売、受注とも前月比は業者により増減分かれ。先行きについては販売、受注とも横ばい～増加見込みで、減少を見込む声はない。
- 景況感…… 当月は業者により見方が分かれるが、好転との声がやや多い。先行きは横ばい～好転見込みで、悪化を見込む声はなかつた。

#### 〔企業からのコメント〕

- ・年初以来、客先やエンドユーザーによる細かい受注変動はあったが、総じてみればほとんど変化のない一年となった。
- ・原材料価格は前年比で1割ほど上昇したが、製品価格は変わらない。

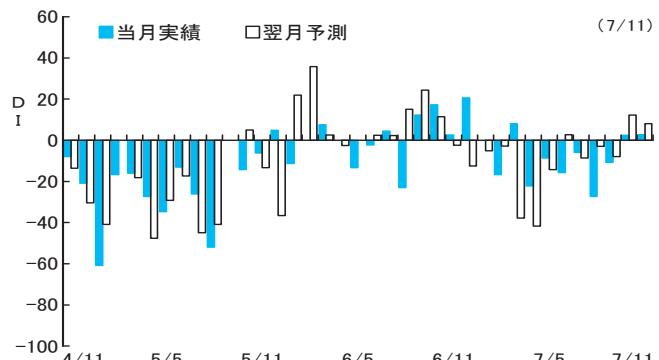
##### ●半導体、液晶製造装置向け機械部品

- 受注、販売… 前月比は販売、受注ともに業者により増減分かれが、販売は増加の声が多い。先行きは増加見込みと減少見込みとの声が拮抗。
- 景況感…… 当月の景況感は業者により見方が分かれる。先行きは横ばい～やや好転。

#### 〔企業からのコメント〕

- ・「11月は取引先の生産が谷間となり販売が減少したが、次月以降は回復の見込み。AI需要一辺倒ではあるが受注も徐々に増加してきており、心配している中国向けも堅調な様相」「10月が非常に悪く、11月はまとまった注文があったため改善した。ただ、乱高下する状況は変わらず、先行き不透明で見通しは明るくはない」
- ・「AI需要がさらに加速して動きそうな気配となってきている。本格的にAIスマホ、AIパソコン、AIサーバーへの切替のための設備投資が大手各社で画策されている模様。GoogleやMeta、Teslaといったテック企業が独自AIチップの設計に乗り出していることから、半導体メーカーや装置メーカーも短納期対応が必須となってきている。またNANDメモリの在庫が適正の数値となってきていることから、NAND系装置の投資も徐々に再開すると思われ、全体像が動き出すのは2026年夏以降の予測が大半となっている」「半導体関連は生産ベースでは回復傾向と思われる。ただし、設備投資までは進まないとのこと。2026年の設備投資も期待できないとの話がある。メイン取引先からの注文は単発で入ってきているが、今回のシリコンサイクルの底が長いと感じている。半導体以外の情報も耳にするが、製造業は軒並み良くないという」

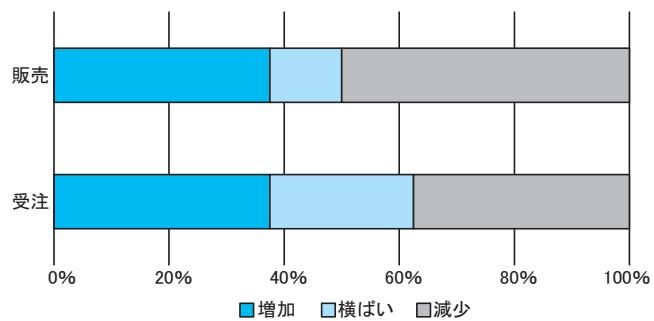
## 飯伊地区景況D I（製造業）



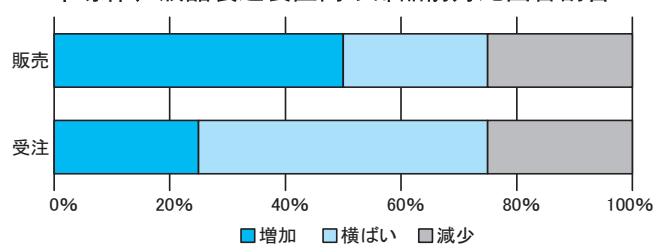
#### 【D I（ディフュージョン・インデックス）】とは…

景気にに関する投票を指数化したもので、全体の回答数を分母、良い、やや良いとの回答数を分子にした割合から、全体の回答数を分母、悪い、やや悪いとした回答数を分子にした割合を引いた数値。  
「先月と比べて景気が良い」との回答が多ければプラス、「先月と比べて景気が悪い」との回答が多ければマイナスとなる。

#### 電気・精密・光学向け部品前月比回答割合



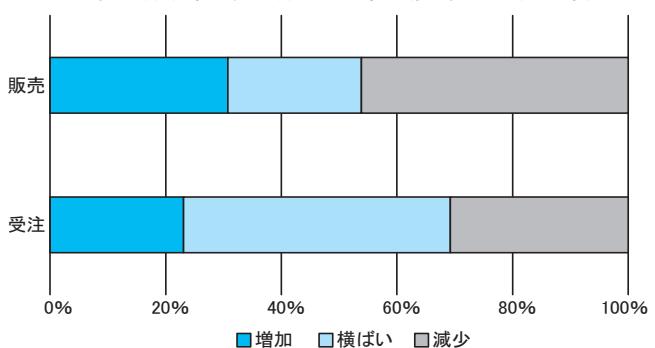
#### 半導体、液晶製造装置向け部品前月比回答割合



## ●産業機器、医療機器向け等機械部品

- 受注、販売… 販売、受注ともに前月比は業者により増減分かれると、販売は減少の声がやや多い。販売の先行きについては業者により増減分かれると、増加見込みの声の方が多い。
- 景況感… 当月、先行きとも業者により見方が分かれるが、当月は悪化の声がやや多く、先行きは好転見込みと悪化見込みの声が拮抗。

産業機器、医療機器向け部品前月比回答割合



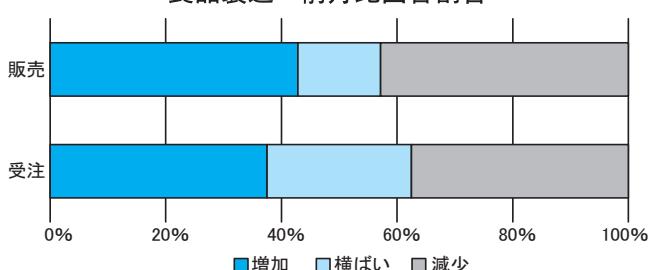
[企業からのコメント]

- 「一部で動きが出てきたところもあるが、先行きは不透明。良くなるのは来春か、という声も多い」「いい話は聞かない。動き出すのは来年後半からか（半導体関係や産業用ロボット関係）」「自社および取引先においても新しい動きが見えず、我慢が続いている状況」「見積りでも受注量は少なく、思うように仕事を確保できないところもある」という
- 「原材料（金属）の価格がここにきてまた上昇している。基本的に価格転嫁は出来ているが注視していきたい」「一部、価格転嫁ができる（僅かな金額だが）」「原材料価格はこのところ動きなし。製品価格は相見積もりが増えており上がらない」

## ●食品製造（漬物、半生菓子、菓子原料、その他食品）

- 売上… 菓子の前月比は業者により増減分かれると、先行きは増加見込みの声が多い。食品全体では増加と減少の声が拮抗しているが、先行きは増加見込みの声が多く聞かれる。
- 景況感… 当月、先行きともに業者により見方が分かれるが、当月はやや好転との声が多い。先行きは横ばい見込みの声が多い。

食品製造 前月比回答割合



[企業からのコメント]

- 「凍り豆腐が年末商材などで堅調」「10月の反動からか、動きが低調」「観光系の土産需要は前年に比べ増進した一方、スーパーなどへの納品点数は減少」「物価上昇が続き、消費動向が心配」
- 「原料の卵など高騰が続き、コストは上がる一方」「卵が高騰を続けている」「電気代が来年から上がるとのこと」「製品の値上げがなかなか進まないなか、原料の上昇、人件費の上昇が先となっている」
- 「新卒者2名他、外国人3名が4月に入社予定」「人員については計画的に入替を進めていく」

## ●水引製品、冠婚葬祭・祝儀用品、正月・盆用品

- 売上… 前月比は業者により増減分かれ、先行きは横ばい～やや増加。景況感は横ばいで、次月以降は横ばい～やや好転。

[企業からのコメント]

- 10月納品の正月飾用品の販売が11月納品になり、売上は前年と同じくらいとなった。各地区とも、数量的には少ないが、正月用材料の出荷は増加している。
- 各社とも正月飾用品で繁忙のよう、正月飾以外の製品が見当たらない現状。売上の増加が見込まれており景気の良い現状だが、それに乗って販売を伸ばし業界として常勝になることを切望する。

## ●上記以外の製造業

- 建築用金属製品… 販売は前月比、前年比とも減少、先行きも減少を見込むという。景況感は当月、先行きともやや悪化という。
- 自動車向け部品… 販売は前月比は業者により増減分かれ、先行きは横ばい～やや増加。景況感は、当月はやや悪化～横ばい、先行きは横ばい～やや好転。
- 印刷… 販売は前月比減少、前年比はやや減少。原材料単価は上昇、先行きも上昇を見込むという。

[企業からのコメント]

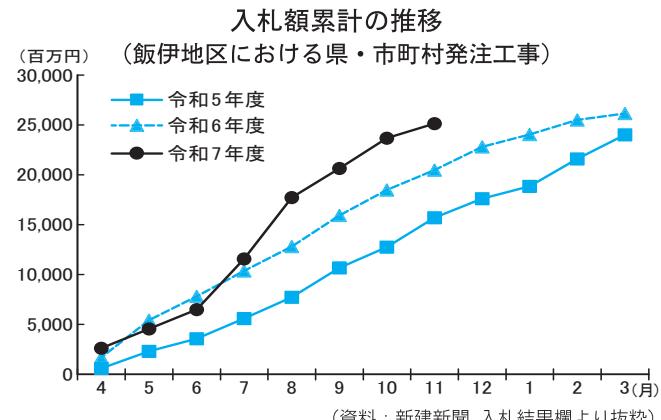
- 例年、11月は10月よりも売上は少ない。年賀状受注は大幅に減少した。
- 「一部の紙材料が12月から値上がり、インキ代も値上がり予定」「人件費ほか、全てのコストが上昇するなか、製品販売価格が上がらないのは道理に合わない」
- 「受注を増やすための営業人員増を検討中。また技能実習生の増員も予定」「営業求人に対する応募はない。求人票内容の見直しを検討中」「現状、人員は足りているが、若手・技術者を希望」

## 官公需 概況 11月の公共工事入札金額は前年比で26.4%減少、一昨年比では50.1%減少

公共工事入札額… 当地区における当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、14.7億円（12月15日調査時点）。前年に比べ26.4%減少、2年前との比較では50.1%減少。

景況感… 当月は業者により見方が分かれるが、横ばいとの声が多い。先行きも横ばい見込みの声が多いが、やや好転を見込むとの声も複数聞かれた。

原材料価格… 当月は横ばいとの声が多い。一方、先行きは上昇を見込む声が多い。



### [企業からのコメント]

- 「公共工事の発注が進んでおり、受注確保に取り組んでいる。決算期をまたぐ工期の受注も」「大口の県発注工事を受注した。今後の高市経済効果に期待したい」「現状は小規模工事や農業関連工事、維持工事のみ。災害関連工事は今期は見込めず、大型物件（県工事）は地域要件の点数比率が低いため予定が立たない」「受注残高は前年比で増加。今後、年内に完了する工事が増える予定」
- 「人員募集中だが、応募が見込めず厳しい」「施工社員不足の状況が続く」「人員は前月比で増加も、今後も求人活動は継続して実施」

## 民需 概況 令和7年10月の住宅着工戸数は46戸で前年比38%減少。

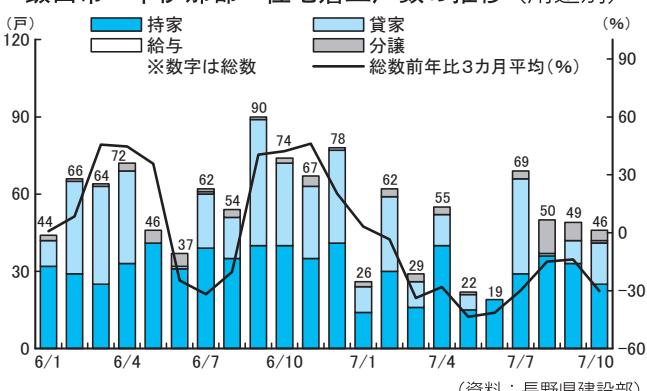
分譲は増加も、持家と貸家が減少し、3ヶ月連続で前年比マイナス

住宅着工戸数… 当地区的10月の住宅着工戸数は46戸。前月比6%減、前年比では38%減。持家の戸数は25戸で前年（40戸）から減少。貸家は16戸で前年（32戸）から半減、分譲は4戸で、前年（2戸）から増加。

景況感… 当月は横ばいとの声が多く、一部には好転との声も。先行きは悪化～横ばい。

原材料価格… 当月は横ばい～やや上昇。先行きについても同様で、下降との声はない。

### 飯田市・下伊那郡 住宅着工戸数の推移（用途別）



### [企業からのコメント]

- 春以降、建築が少ないと感じたが、秋以降見積もりが多くなってきた。
- 職人不足で、リフォーム現場でも工期が伸びてしまう。

## 建設資材等 概況 11月の生コンの売上は前月比、前年比ともに業者により増減分かれ。骨材は前月比、前年比ともに減少

生コン… 売上は前月比、前年比ともに業者により増減分かれ。

骨材… 売上は前月比、前年比ともに減少。

### [企業からのコメント]

- 11月の主な出荷はリニア関連工事、三遠南信工事、発電関連工事、護岸・床固工事、バイパス工事等に関わるものだった。リニア関連工事の出荷量は当月出荷量の約4割。
- 「前月よりも生コンの売上が減少」「業界全体として、当初の期待に届かない結果となった月。生コン各社のリニア関連出荷が想定より少なかったことが原因。また、それをカバーできるような一般建設工事への骨材供給も少なかった」「リニア関連工事以外、あまり仕事がないように思われる」
- ・長野県内の生コン出荷があるのは下伊那だけと聞いている。その他の地域は仕事が減少している。民間工事においては、計画があったが建設費高騰により先延ばしになった事例があるとの話も聞いている。
- ・地元業界として価格転嫁がますますできているため、以前より利益確保ができやすくなっている。

## 商業・サービス業

概況 景況D Iは前月とほぼ変わらず。宿泊業では売上増も景況感は横ばいとの声が多い

当月の商業・サービス業の業況判断指数（D I）はマイナス6.7で、前月から0.8ポイント低下。

当月は飲食業の一部で景況感好転の声が聞かれ、小売業、運輸業の一部から景況感悪化の声が聞かれた以外は横ばいとの声が多く、指数は前月とほぼ変わらない数値となった。秋の行楽シーズンを迎える、宿泊業では売上が前月比、前年比とも増加したとの声が多くなったが、景況感は横ばいという声が多い。今後の中国インバウンドの減少などを懸念してか、慎重な見方をしているように受けられる。

次月以降は、飲食業、宿泊業だけでなく、小売業、卸売業でも景況感悪化を見込む声が聞かれた。



### 主な業種の動き

●小売業 概況 売上の前月比は業者により増減分かれ。景況感はやや悪化～横ばい

売上 … 前月比、前年比ともに業者により増減分かれ。

景況感 … 当月はやや悪化～横ばい。先行きも同様。

#### [企業からのコメント]

- 「米は相変わらずの高値」「天気によって売上が変動するため、雪で客足が止まらないことを願う」
- 「仕入業者からの情報でも、同業者は苦戦している模様。年末の自治体商品券での需要回復に期待。」

●卸売業 概況 売上の前月比は業者により増減分かれ。景況感は当月横ばい、先行きはやや悪化～横ばい

売上 … 前月比で食肉は増加、電設資材はやや増加。食品、建設資材は横ばい、青果はやや減少。

#### [企業からのコメント]

- 野菜は、主力のキュウリは入荷増も価格は安い。キャベツは昨年の異常な高値から例年並み以下まで価格が下がり、入荷も減少した。野菜全体では入荷減となる品目が多く、価格は昨年並みも売上は減少した。果実は、主力のりんごはふじの出荷が多く、価格も安い。昨年はぶどう類も11月まで好調だったが、今年は売上半減。他の品目も、昨年を上回る売上のものはなかった。
- 前年に引き続き、主力商品であるLED照明は供給が非常に不安定で、満足に在庫確保ができない。その他、銅ベースが高騰しており、各種製品への価格転嫁が止まらない。建設向けの需要は好調に推移している一方で、半導体製造装置や工作機械向けで一部、需要の停滞が見られる。建設・インフラ投資の需要に支えられて底堅い印象だが、原材料価格の上昇、円安、人手不足、労務管理費の上昇等、コスト要因の増加が継続している。

●飲食・宿泊・運輸業 概況 売上の前月比は、飲食業は横ばい～やや増加、宿泊業は横ばい～増加。景況感は飲食業は横ばい～やや好転、宿泊業は横ばい

売上 … 飲食業は前月比横ばい～やや増加、宿泊業は前月比横ばい～増加。運輸業は前月比やや減少。

#### [企業からのコメント]

- 「11月上旬は夜の需要はますますだったが、下旬にかけて宴会の予約が多くなったことで、全体として良くなった」「インフルエンザ等の感染症の関係や、物価高の関係もあるのか、ランチをはじめ客足が遠のく。忘新年会の予約も会社単位での予約が入らない状況」「米の高値が続く。マグロは落ち着いてきたが、白身の魚が高い。売上がっても利益が少ないのを感じる。値上げを検討」
- 「年金受給者の親睦旅行が入ったことが要因でやや売上が伸びたが、今後は中国からのインバウンドがなくなる可能性がある」「年末年始の予約が始まっているが、年末については好調なもの正月3が日の動きが例年に比べて悪い」「11月単月としては過去最高水準となった。しかしながら、熊出没報道の影響からか、期待した伸びを欠いての結果」「年々、忘年会の利用客が減少してきており、クリスマス前後も今年は予約が全く入ってこない」「12月は、忘年会需要と霜月祭りの宿泊客で賑わう」
- 「求人はしているが応募はなく、人員は変わらない見通し」「運転手を5名募集中」
- 「コロナ前との売上対比は8割弱、タクシー運行回数は7割弱。12月の繁忙期を迎えるが、夜間の機動力の確保が大きな問題になっている。今後、自社だけのサービスではなく、企業間で協力していく必要があるのではないか。また、タクシーが到着してから速やかに乗車いただけるよう、利用者へのお願いもしていきたい。」

## 南信州まちづくりフォーラム新代表 熊谷 弘氏に聞く ～リニアの時代に向けてひとつをつくる～

30年の活動を以て昨年3月解散した南信州アルプスフォーラムの意志を受け継ぐものとして、新たに発足した南信州まちづくりフォーラム。令和7年8月28日の設立総会で初代会長に就任した熊谷 弘氏に聞いた。

### ■新たなスタート

－南信州アルプスフォーラムとはどう関わられてきましたか、新団体のこれからは

個人会員として青年会議所の現役時代から関わってきた。南信州アルプスフォーラムには、「リニアの実現」「リニアルート問題」などに旗を振って取り組まれた先輩方がおられ、当地域のまちづくりに積極的な役割を果たした。

この青年会議所（JC）が中心になってやってきた思いを引き継ぎながら、さらに広げたい（JC色を薄める）。堅苦しい議論でなく楽しく取り組みたい。当会の会員構成では、行政が積極的に加わっていただいているのが特徴で、南信州広域連合、飯田建設事務所、南信州地域振興局、飯田国道事務所、飯田市、下伊那郡町村会。町村会には阿智村、売木村、豊丘村、喬木村など、11行政・団体となっている。これに特別会員、賛助会員、一般会員の会社・個人などで全体で61会員となる。

アルプスフォーラムは会の目的に「飯田下伊那の自立」を掲げてきたが、当会のテーマは「持続可能なまちづくりの挑戦」。全国もこの地域も人口減少が続き、これは止めることができない。「この地域には歴史・伝統・文化が根付いている」と言っていても人口が減って地域が消滅してしまう危機にある。移住、関係人口、交流人口を含め「増やしていくこと」が経済、文化、教育においても、まちづくりにおいても重要と考えている。

当地域が「他と比べて住みやすいところ」にしていかないと持続は難しい、ということから「持続可能性」に取り組んでいくのがアルプスフォーラムとの違いと言え、その点では新しい時代に一步踏み出したことができる。



熊谷 弘 南信州まちづくりフォーラム会長

### 略歴

1972(昭和47)年生まれ

(飯田市中村)

株式会社 リックス 代表取締役  
伊賀良小PTA会長から市PTA会長・飯伊PTA同・県PTA同、日本PTA常務理事を歴任、長く教育に関わる。

2000年 飯田青年会議所入会

2008年 SYMS(しんきん若手経営者の会)副会長

2009年 飯田青年会議所  
第49代理事長

2025年 南信州まちづくりフォーラム会長に就任

### ■「最高の田舎」

－今後の活動の方向性は

会の規約に掲げた「持続可能性」。南信州まちづくりフォーラムのコンセプトを検討するなかで行き着いたのが「最高の田舎」。

地域の一人一人が自分たちの地域に誇りを持つ。「この地域に何もない」ではなく、この地域の魅力を感じてもらう、感じてもらう人をつくる。

持続可能な地域の作り手ということで、若者。当会では学生会員を設定している。そこで高校生、中学生、小学生も対象としたプロジェクトを展開する。リニアが開けば二拠点生活や地域に残る、再び戻ってくることを展望した地域愛を醸成したい。

各高校で取り組まれている探求学習での地域課題の研究。それぞれ素晴らしい内容だが、これを束ねる。地域への発表の場をつくり、短大生が入ったり、企業が支援することにより将来的に地域企業に就職する流れをつくる。もう一つは小中学生の



南信州まちづくりフォーラム設立総会（8月28日）  
(まちづくりフォーラム事務局 提供)

ジュニアサミット（ウェルビーイングサミット）。子供の地域愛を大人にも共有することで、大人にも刺激になるし、子供も刺激を受け次世代に向けた意識醸成になる。若者のまちづくりへの参画を支援するというのを来年度取り組むこととしている。

次の柱として「女性の参画」。女性が住みやすい地域でない人が増えないのだが、活動に女性の参加を得ていくことにはなかなか苦労している。女性が住みたい人気のある地域・自治体と言われるのはあちらこちらにあるが、これらと交流する中で女性が住みやすい地域を創造していく。男ばかりでネクタイ締めて議論しているような会には参加し難い。

一つの懸念として、子供を相手にしたり地域で公民館活動に参加してみて、気がかりは地方自治組織への参加が減っていること。時代の変化に対応した自治組織のあり方を変えていかないと、自治の担い手不足ということではかなり危機的な状況を感じる。

## ■ リニア整備とまちづくり

### -リニア開通を展望したまちづくりという観点では

これから出来るリニア駅は飯田市だけのリニア駅ではない。関連インフラ整備が進めば南信州地域全体のものとなる。最初に述べた、当会に行政会員として入っていただいているのは、各自治体は魅力的な取組みをされており、それを地域全体のまちづくりにつなげることを企図しているため。微力ながら南信州を一つにまとめたい。面としての地域ブランドと考える。

リニア沿線の交流は今後重要になる。私が青年会議所の20代の頃に毎年の京都会議で「リニア沿線会議」という交流の場があったが残念ながら途絶えている。その時もう一つあった「三遠南信会議」は今でも続いているが。

リニア駅予定地の中津川や橋本で民間のまちづくり団体を探しており、交流を重ねたい。

### -リニア駅前プラットフォームについて

当社としての取り組みになるが、リニアプラットフォーム会議に参加し、その後手を挙げてプラットフォームワーキンググループに入った。ここにはいま6社が参加している。プラットフォーム会議は、駅前広場の一部供用を目指して詰めている訳だが、リニアが開通していないなかでの賑わい創出を具体的にどうするか、財源はどうするなど、難しいところはあるがアイデアは固まりつつある。

個人的な考えを申し上げれば、来年度あたりからは現実的な事業の構築段階に至るので、ここは金融機関が出てきて一緒に取り組んで欲しいという思いがある。付け加えれば、県にも関りをさらに強くしていただければとも感じている。

## ■ 原点はふるさと

### -熊谷さんというと、長年PTAに関わってきた

2020年に県PTA創設以来、飯伊地区から初めて会長に就任した。関東ブロック代表理事や全国PTAの三役にもなり文科省との交渉にも臨むなど得難い経験をした。これもきっかけはある人からの勧めによる。今回のフォーラム会長就任も関係の皆様からの思いを受けた形。声をかけていただいたことが何よりと思う。

この地域の人の好さ、それぞれのこの地域への思い。ウェルビーイングという言葉がとても親和性を持つこの地域において元気よくやっていきたい。

### 持続可能なまちづくりの挑戦

～最高の田舎～



南信州まちづくりフォーラム設立総会資料

### リニア駅前広場



(市議会リニア推進特別委員会 資料)



(飯田信用金庫 しんきん南信州地域研究所 リニア・三遠南信対策室 加藤 修平)

# －DXの取り組みと賃上げに関するアンケート調査結果－

しんきん南信州地域研究所では、飯田下伊那地域のDX（デジタルトランスフォーメーション）の取り組み状況および賃上げの状況について、地域の事業者様を対象としたアンケートを実施しました。

ご多忙の中ご回答いただいた皆様には、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

## I アンケート概要

- ・飯田下伊那地域の企業を調査対象として、郵送・メール・インターネットによる回答を集計
- ・回答総数 69（製造業 39、建設業 16、卸・小売、飲食、宿泊業などを含む商業・サービス業 14）
- ・調査期間 令和7年11月1日～11月20日

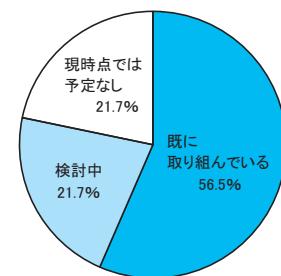
## II アンケートの結果

### ● DXに関する取組の実施状況

現時点におけるDXの取組の実施状況について、「既に取り組んでいる」「検討中」「現時点では予定なし」の内から一つ選択してもらった。この中で、「既に取り組んでいる」との回答が39者、56.5%と半数を超えており、「検討中」「現時点では予定なし」がそれぞれ15者、21.7%で並んだ。

「既に取り組んでいる」と回答した事業者を従業員数別に見ると、従業員数1～10人の事業者では33.3%、従業員数11～50人の事業者では59.1%、従業員数51人以上の事業者では69.2%となっており、従業員数が多い事業者ほど、DXに取り組んでいる割合が高くなっている。また業種別に見ると、製造業では59.0%、建設業では37.5%、商業・サービス業では35.7%となっており、製造業の6割程度がDXに関する取り組みを進めている状況が窺える。

DXに関する取組を行っていますか？

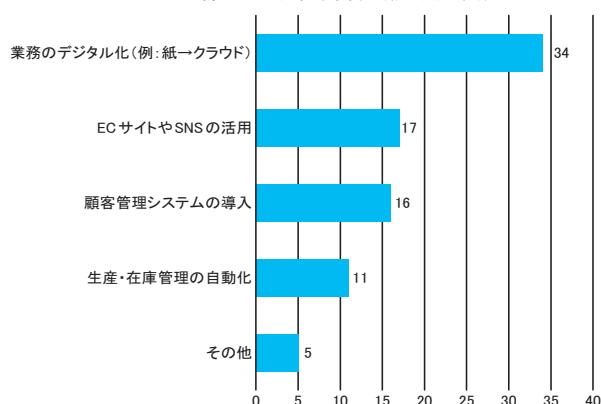


### ● DXの具体的な取組内容

DXについて「既に取り組んでいる」と回答した事業者に、具体的な取組内容について「業務のデジタル化（例：紙→クラウド）」「ECサイトやSNSの活用」「顧客管理システムの導入」「生産・在庫管理の自動化」「その他」の内から複数回答で聞いた。

最も多かったのが「業務のデジタル化（例：紙→クラウド）」（34者）、次いで「ECサイトやSNSの活用」（17者）、「顧客管理システムの導入」（16者）が続いた。「その他」（5者）では、「キャッシュレス決済やモバイルオーダーシステムでの売上管理」（飲食）、「稼働状況の見える化等」（製造）などの回答があった。

DXの具体的な取組内容（複数回答）



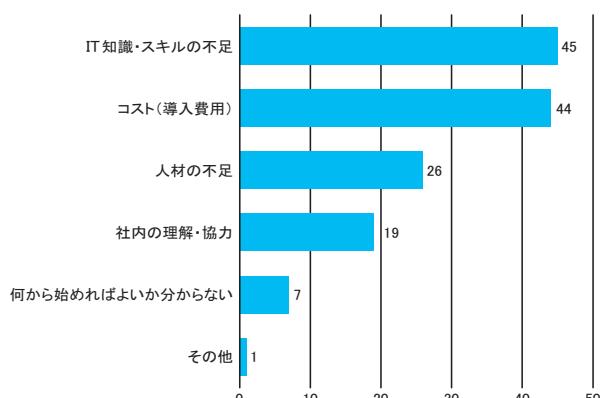
### ● DXを進めるうえでの課題

DXを進めるうえでの課題についても、「IT知識・スキルの不足」「コスト（導入費用）」「人材の不足」「社内の理解・協力」「何から始めればよいか分からない」「その他」の内から複数回答で聞いた。

「IT知識・スキルの不足」（45者）、「コスト（導入費用）」（44者）の2項目が多く、次いで「人材の不足」（26者）、「社内の理解・協力」（19者）が続いた。

「IT知識・スキルの不足」については、従業員数1～10人の事業者で66.7%、従業員数11～50人の事業者で72.7%、従業員数51人以上の事業者では38.5%となっており、従業員50人以下の事業者において課題と感じている割合が高い。また、

DXを進めるうえでの課題（複数回答）



「コスト（導入費用）」については、従業員数1～10人の事業者で58.3%、従業員数11～50人の事業者で59.1%、従業員数51人以上の事業者で84.6%となっており、こちらは従業員が多い事業者の課題意識が高いことが窺える。

### ●今後、DXに取り組む意向はあるか

今後のDXの取り組み意向について、「積極的に取り組みたい」「必要性を感じるが迷っている」「今のところ予定なし」の内から一つ選択してもらった。「積極的に取り組みたい」との回答が36者、52.2%でトップ、「必要性を感じるが迷っている」「今のところ予定なし」が12者、17.4%で並んでいる。

「積極的に取り組みたい」と回答した事業者を従業員数別に見ると、従業員数1～10人の事業者では33.3%、従業員数11～50人の事業者では54.5%、従業員数51人以上の事業者では61.5%となっており、こちらも従業員数が多い事業者ほど割合が高い結果となった。

### ●DXに関連して興味のある分野

DXに関連する取り組みで、興味のある分野について「生産性向上」「会計・経営管理」「AI・データ分析」「サイバーセキュリティ」「顧客管理・販売促進」「その他」の内から複数回答で聞いた。

「生産性向上」が42者でトップ、次いで「会計・経営管理」(31者)、「AI・データ分析」(27者)、「顧客管理・販売促進」(21者)の順となった。「生産性向上」については製造業の74.4%、建設業の56.3%が興味があると回答しており、関心の高い分野であることが窺える。

### ●過去1年における賃上げの動向

本調査では、過去1年間における、事業者の賃上げ動向についても聞いています。「賃金を引き上げた」と回答した事業者についてはその賃上げ率について、「賃金を引き上げなかった」と回答した事業者についてはその理由について、それぞれ聞いている。

まず、「賃金を引き上げた」「賃金を引き上げなかった」との回答については、「賃金を引き上げた」との回答が97.1%となり、大多数の事業者がこの1年間で賃上げを実施しているとの結果になった。賃上げ率については、「2%以上～4%未満」との回答が52.9%で最も多く、次いで「4%以上～6%未満」が23.5%、「2%未満」と「6%以上」は10.3%となった。

また、「賃金を引き上げなかった」と回答した事業者を対象に、その理由について「賃上げに見合う価格転嫁ができていないから」「同業や同地域内の他社が上げていないから」「今後の業績見通しが不透明だから」「売上が低迷、伸び悩んでいるから」「これまでに賃金を引上げ済みだから」「従業員がいないから（家族経営など）」の内から一つ選択してもらった。結果は、「賃上げに見合う価格転嫁ができていないから」「売上が低迷、伸び悩んでいるから」との回答がそれぞれ1者ずつだった。

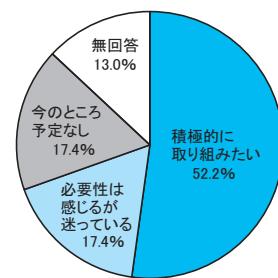
## III 総まとめ

DXへの取り組みは、コロナ禍以降に加速度的に進み、近年では人材不足への対応策として関心が高まっているテーマであるが、現状で取り組んでいる事業者は5割強といったところで、特に小規模事業者で取り組んでいる割合が低い傾向にあることが窺えた。当地域の生産性向上や人材不足への対応策として、DXは今後も事業者ニーズの高いテーマであると考えるので、先月号に掲載した遠州地域の事例紹介のような形も含め、引き続き取り上げていきたい。

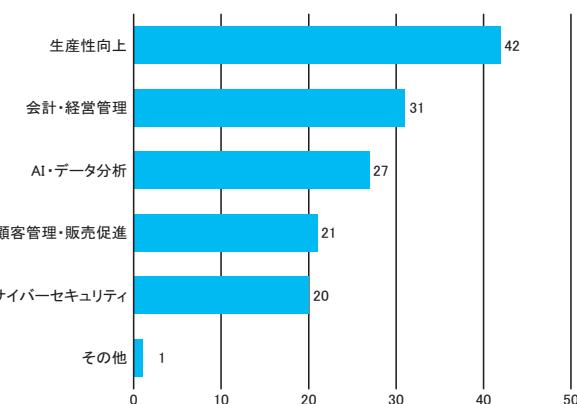
また、賃上げ動向については、様々な物価上昇により厳しい経営環境にありながらも、事業者の努力によって賃上げが進められている状況が見られた。インフレが進む中で人材確保のために賃上げが求められる状況は今後も継続すると予想されるので、こちらについても継続的に調査を実施していきたい。

(飯田信用金庫 しんきん南信州地域研究所 竹内 文人)

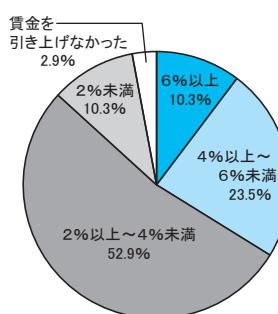
今後、DXへ取り組む意向



DXに関連して興味のある分野（複数回答）

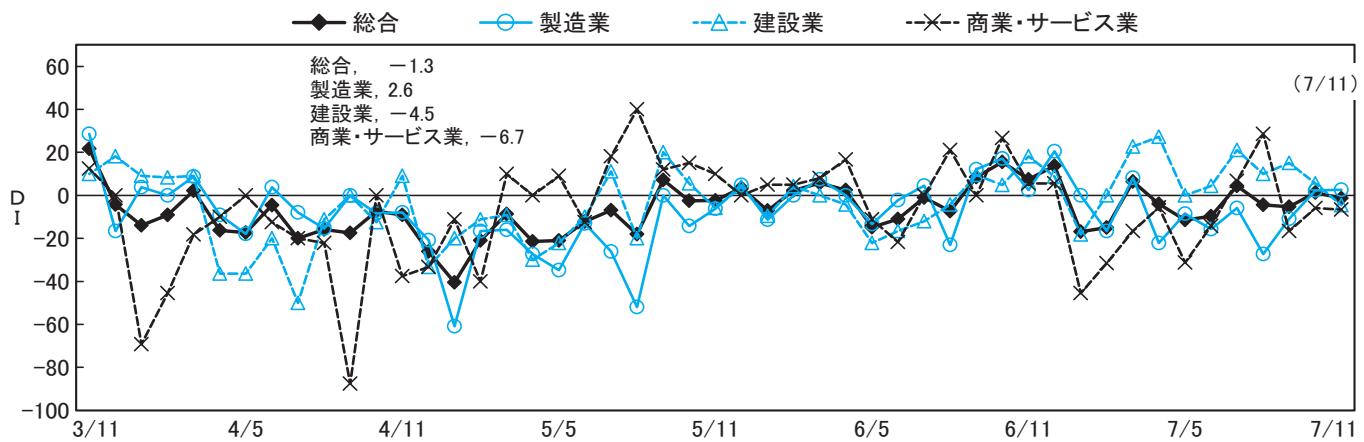


過去1年間における賃上げ動向



## 飯伊地区全産業景況DIの推移

飯伊地区景況DI（本誌調査）



## 飯伊地区主要経済指標

主 要 指 標		実 数	前月比	前年同月比	前々年同月比	令和元年同月比
倒 産 件 数 (負債総額1千万円以上)	県内	11 件	(前月 9 件)	(前年同月 13 件)	(前々年同月 3 件)	(令和元年同月 8 件)
	飯 伊	2 件	(前月 1 件)	(前年同月 2 件)	(前々年同月 1 件)	(令和元年同月 2 件)
住 宅 着 工 戸 数 (飯田市、下伊那郡 総数) (10月)	46 戸	△ 6.1 %	△ 37.8 %	△ 31.3 %	△ 11.5 %	
有効求人倍率 (パートを含む実数) (ハローワーク飯田管内) (10月)	1.34 倍	(前月 1.29 倍)	(前年同月 1.40 倍)	(前々年同月 1.55 倍)	(令和元年同月 1.38 倍)	
自動車新規登録台数 (松本事務所管内)	新 車	1,924 台	△ 5.2 %	△ 8.6 %	△ 16.9 %	△ 8.4 %
	中古車	676 台	△ 16.1 %	△ 2.0 %	△ 5.2 %	3.7 %
軽自動車新規登録台数 (全国軽自動車協会連合会) (10月)	新 車	3,709 台	△ 11.9 %	△ 4.1 %	△ 9.1 %	13.8 %
	中古車	891 台	△ 15.4 %	△ 11.4 %	△ 9.8 %	0.1 %
中央道利用台数 (飯田インター分)	入	103,541 台	△ 2.1 %	△ 1.0 %	0.8 %	△ 14.7 %
	出	104,332 台	△ 2.9 %	△ 2.0 %	△ 0.2 %	△ 14.5 %
中央道利用台数 (松川インター分)	入	66,749 台	1.2 %	△ 3.1 %	△ 1.8 %	△ 26.5 %
	出	66,739 台	3.6 %	△ 3.3 %	△ 2.7 %	△ 25.3 %
中央道利用台数 (園原インター分)	入	17,803 台	30.9 %	△ 13.7 %	△ 12.8 %	△ 14.2 %
	出	14,661 台	15.5 %	△ 6.9 %	64.6 %	△ 28.9 %
中央道利用台数 (飯田山本インター分)	入	56,530 台	4.0 %	△ 1.6 %	△ 1.3 %	7.9 %
	出	53,256 台	5.7 %	△ 11.1 %	△ 16.4 %	0.1 %
中央道利用台数 (座光寺スマートインター分)	入	47,378 台	△ 0.7 %	7.6 %	15.1 %	- %
	出	49,444 台	△ 2.0 %	12.3 %	26.0 %	- %
信用保証協会 新規保証件数 (飯田支店管内)	119 件	3.5 %	5.3 %	△ 20.7 %	△ 18.5 %	
信用保証協会 代位弁済件数 (飯田支店管内)	14 件	(前月 5 件)	(前年同月 5 件)	(前々年同月 1 件)	(令和元年同月 7 件)	
高速バス乗車人数	飯田～新宿	22,826 人	2.7 %	1.5 %	9.7 %	△ 17.6 %
	飯田～名古屋	15,015 人	△ 1.8 %	5.4 %	5.4 %	△ 18.6 %
	飯田～長野	4,621 人	△ 4.1 %	16.8 %	15.9 %	△ 47.9 %
	伊那・駒ヶ根～新宿	18,332 人	△ 0.5 %	△ 0.1 %	11.5 %	△ 16.6 %
市内循環バス乗車人 数	左回り	2,780 人	△ 9.5 %	△ 8.0 %	4.6 %	△ 24.5 %
	右回り	3,026 人	△ 6.9 %	△ 2.3 %	14.2 %	△ 10.8 %